

## IEC（国際電気標準会議）鉄道用電気設備とシステム 専門委員会（TC9）の第58回総会が開催されました

2018年11月27日  
公益財団法人鉄道総合技術研究所

IEC（国際電気標準会議）/TC9（鉄道用電気設備とシステム専門委員会）（以下、IEC/TC9）の第58回総会が、東京・千代田区のステーションコンファレンス万世橋で11月19日から22日の4日間にわたり開催されました。公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、IEC/TC9の国内審議団体を務めており、今回の総会が日本で開催されるに当たり、開催国の審議団体としてその運営を担務しました。以下に会議の概要をお知らせいたします。

この総会には、日本のほか、オーストリア、中国、チェコ、フランス、ドイツ、インドネシア、イタリア、韓国、ルクセンブルグ、ロシア、スウェーデンおよびイギリスの13か国から51名の参加者がありました。

総会は、Gianosvaldo Piana Fadin（ジャノスバルド・ピアナ・ファディン）議長（イタリア）が、開催国日本への謝辞を述べた後、開催宣言を行いました。

議長の開会宣言に引き続いて、鉄道総研 熊谷則道理事長が歓迎のあいさつを行いました。

本総会は、IECにおける鉄道関係規格のこの1年間の審議結果やプロジェクトの進捗状況を確認するとともに、新たな規格の検討開始とその審議体制を決定する役割を担っています。

総会では、規格審議状況の報告や新規プロジェクト開始に関する議論が行われ、日本が提案した「交流電力補償装置」の規格化開始を問う投票の開始や、「補助回路用リチウムイオン電池」の規格化を検討するための日本をリーダーとしたグループの新設等を含む、合計40件の決議が採択されました。

このように日本が主導的な役割を果たす新たな規格候補の検討開始が決定したほか、国内で開催されたことから多くの日本の担当者が出席し、直接に審議状況の説明を行ったため、近年多様化している参加国に対して国際標準化に日本が果たしている役割を示すことができました。この会議の成果を、日本の鉄道へのさらなる理解の促進とともに、日本の鉄道技術の海外展開にも役立てていきたいと考えています。また、海外からの参加者に日本の鉄道を理解していただくためのテクニカルビジットとして、鉄道総研国立研究所の試験設備見学を実施しました。



IEC/TC9 第58回総会



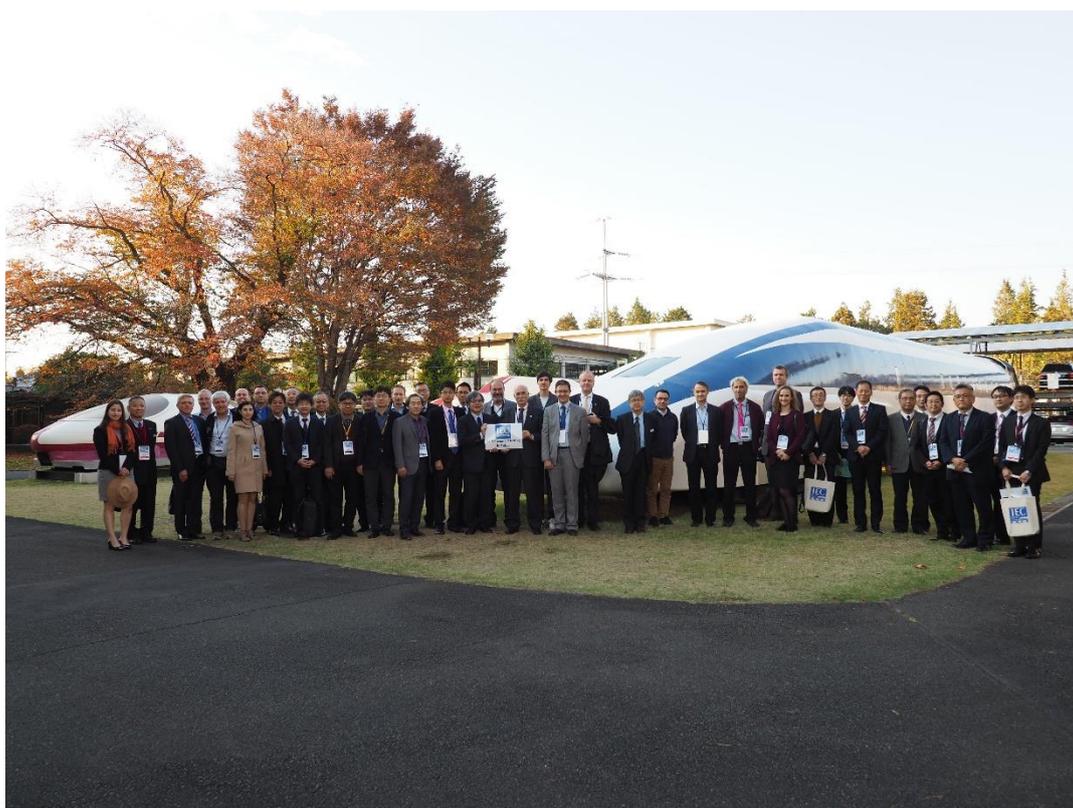
歓迎のあいさつをする熊谷理事長

## 【熊谷理事長挨拶要旨】

本会議を日本で開催するにあたり、世界各国より多数参加頂いたことに感謝し、心より歓迎の意を表します。鉄道総研は、鉄道分野の国際規格審議において皆様と成果を創り上げ、世界の鉄道をよりよくするために貢献していきたいと考えております。研究開発と国際標準化活動は、一見すると異なる活動に見えるかもしれませんが、研究者・技術者が真摯に考え、議論した成果を社会に提供する、という目標においては、きわめて同一の考えに基づいたものと思っております。今回の総会では、よりよい世界の構築に役立つような深い議論をしていただくことを期待します。



総会参加者



テクニカルビジット（鉄道総研国立研究所）